

# 京都教区時報

Home Page http://www.kyoto.catholic.jp 4345

2頁～3頁 2014年 教区行事あれこれ

4頁～6頁 「都の再宣教」第4回 教会史講座(講師 中島 昭子氏)

10頁 魅力ある教会って?? (河原町教会)

京都教区広報委員会  
編集長 村上透磨  
京都市中京区  
河原町通三条上る  
TEL 075-211-3468  
FAX 075-211-4345  
kouhou@kyoto.catholic.jp

点訳版「京都教区時報」(無料)  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601

2014年 司教年頭書簡 神の「貧しさ」を生きる

## 11. 貧しい人への愛を聖靈に祈る

キリスト者の生活は「貧しさを選ぶ」という生き方にあります。この生き方はなかなか難しく、聖靈の導きが必要となります。聖靈は貧しさに対する無関心や、個人的責任を逃れないように、良心を通して働いて下さい。

現代の過剰な消費主義や快楽主義と戦うためには、聖靈の助けがなければなりません。この貧困と闘い、福音的な貧しさに生きるために、聖靈の恵みと働きを必要とするのです。聖靈が与えて下さる恵みは、「愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔軟、節制」(ガラテヤ5・22～23)と言われます。私たちが聖靈の助けによって「貧しい人」と共に生きるとき、貧しい人が福音に心を開いているように、謙遜に心を開く恵みを、全ての人に父である神が与えて下さります。「受けるより与える方が幸いである」(使徒言行録20・35)と言われます。この「与える」ということは、道徳的な訓戒というより、聖靈が心の奥深いところによるのです。

聖靈の働きは、キリスト者の物質的な貧しさに福音的な新しさを加えます。「互いに愛し合いなさい」という教えの新しさと力を聖靈の恵みが、実行へと促すことによります。福音の道徳的な教えも、聖靈が生きた温かいものとされます。聖靈の恵みがなければ、どんなすばらしい言葉も死んだ文字と

同様です。

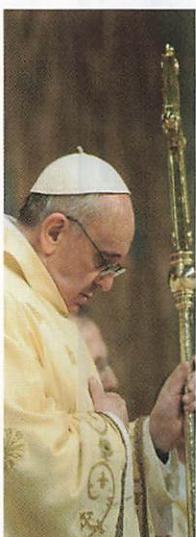
聖靈はキリストの靈です。ですから、キリストが愛する人に働く靈でもあります。キリストの愛は、特に貧しい人々に向かいます。私たちが貧しい人への愛に向かうためには、イエスが示された愛と共に、聖靈の働きを必要とするのです。聖靈の働きを進めんて愛することが出来るよう、聖靈に祈りましょう。

### 〔教皇フランシスコと共に〕

締めくくりは、教皇フランシスコの言葉と教えと模範に訴えます。教皇は就任以来、「宣教の中心」が「貧しさ」と語り、堅苦しいお高くとまつたキリスト者や神学者の態度を、かなり辛辣な言葉で批判されます。最後に「アナウイン(主の貧しい者)になろう」と訴えます。アナウインとはその貧しさの故に、何の生きる術も知らず、ただ神に寄り頼むほか、生きる道を知らない、謙遜な人を指すのだそうです。不思議なことに、そんなアナウインがイエスでありマリアであると言えます。

(村上透磨)

12  
2014





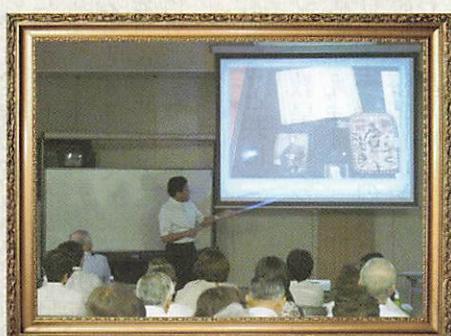
4月16日 聖香油ミサ



4月27日 新信者のミサと集い



6月6日～11日 京都済州姉妹教区交流



「都の再宣教」教会史講座（全4回）

時報8月号  
掲載

2月13日～16日 济州教区「アボジハッキヨ（お父さん学校）」來訪



2月15日～16日 青年センター創立25周年記念の集い



3月27日～29日 侍者合宿 &amp; 召命祈願ミサ

時報6月号  
掲載

時報10月号  
掲載

8月9日～18日 AYD アジアン・ユース・デー

時報11月号  
掲載

6月29日 教区青年の集い

時報10月号  
掲載

8月30日 教会学校研修会

時報10月号  
掲載

7月30日～8月1日 高校生会 夏合宿

時報12月号  
掲載

10月4日～5日 教区 青年のための黙想会（望洋庵）

時報10月号  
掲載

8月5日～7日 中学生広島平和巡礼

時報12月号  
掲載

10月20日～29日 高山右近列福祈願公式巡礼

## 「都の再宣教」

近代日本における福音宣教の歩み

教会史講座



### 第4回 「都の聖母」と 日本の福音化をめぐって

講師 中島 昭子  
(搜真学院学院長)

前月号に引き続き「都の再宣教」をテーマにした、第4回目の講演会を紹介します。今回は、河原町教会小聖堂に安置されている「都の聖母」についてお話ししていました。

わたしは不思議な導きによって「都の聖母」の研究を始めることになりました。この聖母は日本のカトリック教会の宝であると思います。今日はその「都の聖母」とカトリック教会の日本再宣教の背景についてお話しいたします。

ある図書館でフランス語の資料を探していたときのことです。肝心の資料は見つからず、1冊のフランス語の古書にめぐりあいました。

『日本帝国改宗のための会員手引き』(レオン・ロバン著、パリ、1864年)と題されたその本は極めて興味深いものでした。

フランス、ディニヤ村のロバン神父が日本人のキリスト教への改宗を願って「日本の改宗を祈る会」をたちあげ、さらには「都の聖母」像を造って送ったことなど、その本を手掛かりとして様々なことがわかつてきました。

ディニヤ村は、スイスとの国境に近いジュラ県にあり、「宣教師のふるさと」と言つてもよいほど宣教が盛んなサン・クロード教区に属していました。

ロバン神父は1802年に生まれ、42歳から80歳まで、ディニヤ村で司祭として過ごしています。

宣教師を志したもののが健康にめぐまはず断念しましたが、日本のキリスト教に関する本を読んで、キリストンに深い関心をもち上記の「祈る会」を興しました。一度も日本の土を踏まなかつたとはいえ、日本の福音化になくてはならない人だと思います。

ロバン師が生まれたころのフランスの教会は、フランス革命の弾圧によって、厳しい状況にありました。神父の成長期は反対に教会の再出発期と重なり、「宗教の春」を迎えていたのです。

「日本の改宗を祈る会」の会則は單純なものでした。まず会員になりたい人はロバン神父のところで名前を登録し、宣教師が日本に入国できるように毎日祈ります。



ヴィリオンホールと都の聖母小聖堂の間仕切りを外して講演



サン・クロード カテドラル



パリ外国宣教会 本部

同時に当時盛んになりつつあった「信仰弘布会」に入会し、毎週1スー（フランスのバゲット1本は2スー）の献金をすることが勧められました。これが海外宣教の資金源となつたのです。

「祈る会」の会員は設立当初（1847年）、村民（550人）の約8割450人が登録し、1850年には1800人、その後海外からの入会もあり、1852年には3千人に達していました。日本開国まであと2年でした。

### パリ外国宣教会と日本の再宣教

世界的にみて、17～18世紀のカトリック宣教は、スペインやポルトガルの国力の衰退やフランス革命などのために大きな困難を抱え、「消えそう」な状態でした。

宣教を国家からよりもどしたいと望んだ教皇も創立に賛同し、19世紀の「宣教の春」の大きな力となりました。18世紀には全世界で約300人であった宣教師が、19世紀には約6万1千人になり、その中で2221人がパリ外国宣教会の宣教師であったことからも、その広がりがわかります。

このようなパリ外国宣教会に対し、日本への再宣教を望んだローマ教皇は、朝鮮半島を経て日本へ入国する可能性について調査するよう指示しました。

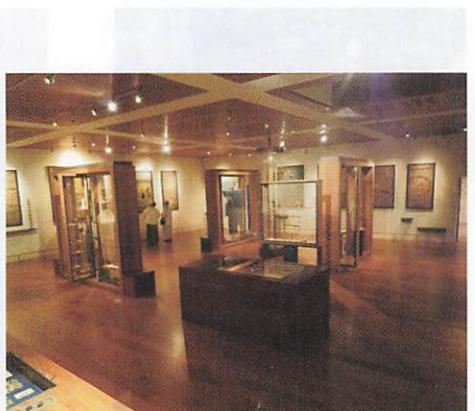
朝鮮もまたキリスト教への迫害で困難な時期を迎えていたため、このルートを断念。琉球王国より入ることが試みられ、その最初の宣教師として琉球に入った（1844年）のがパリ外国宣教会のフォルカード神父（後に司教）でした。神父は琉球で日本語を学びながら2年間滞在し、日本入国の機会をうかがっていましたが、健康を害してやむなく帰国。当時の目的は達せられませんでしたが、「鎖国を乗り越えた」司祭と言えましょう。

その後、やはりパリ外国宣教会のジ

ラール神父が1859年に日本へ入国、事実上の最初の宣教師となりました。ジラール神父が横浜に天主堂を建てた年、1862年を日本のカトリック教会は再宣教の記念の年とみなしています。以後、大浦天主堂の献堂、浦上の信徒が発見、浦上四番崩れなど、重要な出来事が続き、キリスト教は1873年の「キリスト教禁令高札撤廃」（明治政府によるキリスト教の黙許）まで波乱の多い時期を過ごします。

### 「都の聖母」

話をロバン神父の「祈る会」にもどします。「祈る会」の人々は、当時の目的『宣教師が一日も早く日本に入国できますよう』が達せられた後、今度は、キリシ



パリ外国宣教会 宣教師記録室

活動的なロバン神父は、聖フランシスコ・ザビエルが日本にもって来たと言わ  
れている「幼いイエスを膝に抱く聖母」の絵図をモデルに6体の聖母像を造らせ、教皇の祝福を受けて各地に送りました。その中の1体が日本に送られ、当時、日本教区長であったジラール神父のもとに届けられました。翌年ジラール神父が帰天したことか

タン禁令が早く撤廃されて『日本人がキリスト教を自由に信じられますように』と祈り始めました。そのディニヤ村を前述のジラール神父がひとりの日本人を伴って訪れていました。一方は、その後ローマで洗礼を受けた後の消息はわかりません。

ここから「都の聖母」についてお話しします。



ディニヤ教会

2004年に「都の聖母」聖堂ができることは、皆様もご存じのとおりです。「都の聖母」についてはまだまだ分からぬことが多いのです。

ジラール神父の帰天後、神父が所持していた像の行方、ロバン神父が「都の聖母」像につけた手紙（京都を見下ろす丘に埋めてほしい）の所在、聖母像を埋めたときの地図のありか、他の5体の行方などが分かっていません。

一番大切なことは、鎖国中の日本のた



ディニヤ教会 墓地



サン・クロード教区 ジョーデイ司教と大塚司教、ロバン神父へ感謝の墓参



ロバン神父の墓  
「都の聖母」の写真と共に

めにあれほど多くの人々が、祈っていてくれた事実です。フォルカード司教のロバン神父宛書簡には「祈って、祈って、祈つてください」という言葉があります。日本の再宣教はまさに祈りの中で果たされたと言っても過言ではないでしょ

う。  
(福音宣教企画室)

日本の教会は、ユスト高山右近の列聖申請を1930年の司教會議で決議して以来84年にわたり、全教会挙げて取り組んでいます。

2011年、証聖者から殉教者への列聖事由の変更が承認され、ローマ教皇厅列聖省の審査を待つ段階です。

日本は、右近帰天400年を迎える2015年には、列福を実現したいと願っています。また司教団は、教皇フランシスコが日本を訪問するよう招請しています。

そこで、列聖の早期実現を願う要請書を教皇に手渡すため、司教団は公式巡礼を組織いたしました。

この巡礼は、右近の信仰を育んだ靈性のふるさとヤルルドを訪ねた、意味深い公式巡礼になりました。

(公式巡礼パンフレット司教団メッセージより)

日本の教会は、ユスト高山右近の列聖申請を1930年の司教會議で決議して以来84年にわたり、全教会挙げて取り組んでいます。

2011年、証聖者から殉教者への列聖事由の変更が承認され、ローマ教皇厅列聖省の審査を待つ段階です。



バチカン・ピエトロ広場



教皇謁見会場

聖ピエトロ寺院に安置されている  
聖ヨハネ23世教皇の御遺体

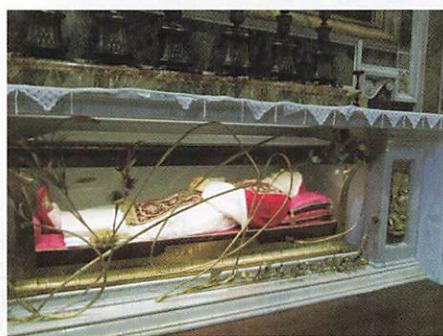
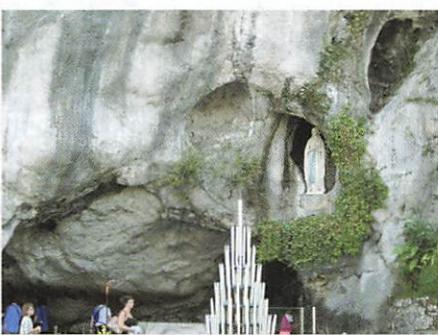


聖ピエトロ寺院での司教団ミサ



システムナー礼拝堂の壁画の説明

ルルドのグロット(洞窟)



社会福祉法入力トリック京都司教区カリタス会

八

施設紹介

## 希望の家児童館・崇仁児童館

### 障害のある中高生のタイムケア事業（れいんぼう）

希望の家は、1959年4月に崇仁学区と東九条に住む児童に健全な遊びや学習の場を提供する「子どもの城」として誕生し、現在の希望の家児童館に繋がっています。

希望の家児童館には、障害のある児童が少なからず通っていたために、2007年6月から「障害のある中高生（中学生・高校生）のタイムケア事業」を京都市から受託し、伏見区の砂川小学校の空き教室を利用して実施してきました。

2011年4月から崇仁児童館も希望の家の事業として運営をおこなっています。

障害のある中高生のタイムケア事業 タイムケア事業を利用する児童は、呉竹総合支援学校に通う中高生で、就労している保護者に代わって充実した放課後

を過ごせるように支援をおこなっています。

タイムケア事業という言葉からは、事業内容をイメージしにくいのですが、障害のある中高生の児童館と考えていただきたいと思います。

希望の家が担当するタイムケア事業所以外にも、京都市内では他の法人によつ

て3か所で実施されています。タイムケア事業所間で緊密な連携が取れるようになります。夏休みには簡易ブールを希望の家の前に作り、希望の家児童館の子どもたちと一緒に楽しんでいます。

冬にはクリスマス会、春と秋には高齢者と一緒に遠足に出かけ、植物園や宇治散策を楽しんでいます。

### 児童館事業

現在、京都市の児童館は一元化児童館として、児童館事業（0歳から18歳までの児童が自由に遊べる場の提供）と学童保育事業（小学1年生から3年生、障害のある児童は4年生までが登録し放課後



タイムケア事業高齢者と遠足

の保育をおこなう）を実施しています。希望の家児童館の特徴は、統合育成（障害の有無にかかわらず一緒に育成をおこなう）と異世代交流（高齢者と児童が日常生活や行事を通して自然な交流をおこなう）です。

多文化共生（地域性を活かし多様な文化を持つ児童が、お互いを理解しながら成長する）をモットーに事業をおこなっています。

崇仁児童館は、1995年に、学童保育所から児童館となり、長年地元の崇仁児童館運営委員会によって運営されてきました。



児童館異世代交流

度を導入したため、社会福祉法人大ト リック京都司教区カリタス会（以下、カリタス会）が管理者に選ばれ、2011年4月から希望の家が運営をおこなうことになりました。

希望の家は崇仁学区で誕生したため、希望の家が崇仁児童館を運営するのは自然な流れでした。また、2008年から東九条のぞみの園（カリタス会）が崇仁デイサービス「うるおい」を運営していましたので、崇仁児童館を受託することで、法人として崇仁学区の福祉を総合的に捉えることが可能になりました。

2010年に、崇仁小学校と近隣の2校が統合し下京渉成小学校になりました。統合前は、崇仁児童館を利用するのには崇仁小学校の児童が中心でしたが、下京渉成小学校が崇仁児童館の近くに出来たため、他の学区からの利用児童が増えてきています。

### 東九条三施設の取り組み

東九条には、カリタス会の施設として希望の家、希望の家カトリック保育園、東九条のぞみの園の3施設があり、カリタス会東九条3施設と呼んでいます。3施設では、合同の研修会・交流会を

毎年おこなってきましたが、近年では、日常の事業も連携しておこなうことが増えています。

3施設は同じルーツから出発しているため、利用者に対する思いを一つにしながら、東九条を中心とした総合的な福祉の実現を、目指していくたいと考えています。



崇仁児童館お囃子会

例えば、保育園や児童館がデイサービスを訪問し、歌の披露をおこなっています。希望の家でおこなわれている春まつりのステージには、デイサービスや特別養護老人ホームから参加者があります。

シリーズ  
小教区

## 魅力ある教会つて?? (河原町教会)

(河原町教会)

一人ひとりが役割を担い、  
皆が一つになつて祈るー

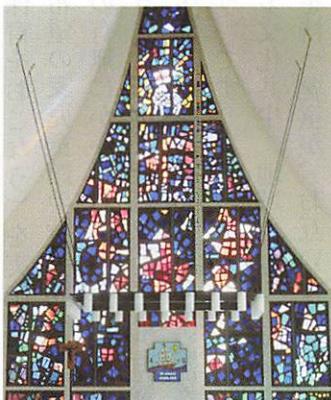
### ○繁華街の真ん中に立地

河原町教会は京都市内河原町三条の繁華街にあります。

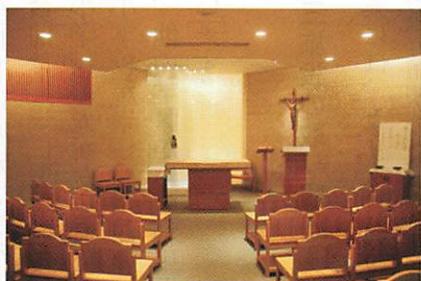
聖堂は、ザビエル像と十字架の道行が描かれた南側のステンドグラスと、正面祭壇後ろの鮮やかなステンドグラスらの光で、全体が荘厳な輝きにつつまれています。

設置当時は、アジア最大級であったパイプオルガンの神秘的な音色が、訪れた方をいやし、繁華街の中にありながら、街中の騒音が遮断されて、静かな時を過ごすことが出来ます。

地下聖堂は、「都の聖母小聖堂」と呼ばれ、1847年、日本での自由な宣教者が出来ます。この実現を呼びかけられたフランスのロバント神父が、京都に教会を建てたいというザビエルの願いを、かなえようと作られた黒い聖母子像(禁教令下にあつた日本者の信仰の輝きを示す、和紙で作られた壁と26個の星をちりばめた飾りガラス、東山の将軍塚に埋められていた)が置かれ、大理石の祭壇と説教台、26聖人殉教者と26個の星をちりばめた飾りガラス、照明が雰囲気を醸し出しています。日曜日はもちろん平日でも日中は解放されていますので、巡礼者・旅行者そして信者でない方もよく来られます。



聖堂正面のステンドグラス



都の聖母小聖堂

### ○福音を広めるために



クリスマス市民の集い

今年46回目となる「クリスマス市民の

集い」は、当教会聖歌隊の奉仕でパイプオルガン演奏等のコンサートと「み言葉の祭儀」を行い、最後に全員でクリスマスキヤロルを合唱して、クリスマスを祝います。毎年500名以上の一般市民の方が参 加され、この集いをきっかけに、直接教会に来られる方もおられますし、当日のアンケートで信仰に興味があると答える方には、『ザビエル訪問会』の部員が訪問して、個別にお話しをさせていただいています。その後、洗礼を受けられた方にも多くおられます。

地元の商店街振興組合との交流では、待降節のはじめに、教会内と街路樹や店先等に、灯りをともす点灯式を、一緒に行います。そのほか年2回ほど、商店街のバザーのために、場所を提供するなど教会が地域にとって、身近なものとなるような取り組みをしてています。

## ○皆が参加するミサ

ミサには、他教会の方、旅行者、求者の方達など多くの方が参加します。求者のミサは、土曜日18時30分、日曜日7時・10時30分です。会衆がミサに積極的に参加できるように、聖歌隊・オルガストが奉仕しています。

朗読奉仕も部会を中心に選考し、小学生から90才代の方まであらゆる年代の方学が代わる代わる行うようにしています。ミサ後にはお茶サービスコーナーを設けるなど、信徒間また来訪者との交流の場を提供しています。

信徒たちが単に受動的にミサに与るのではなく、一人ひとりが役割を担い、そこで一つになってお祈りできるようになると、それが環境づくりに努めています。

カトリック河原町教会



ミサ後のお茶交流

## 12月のお知らせ

## 教 区

**聖書委員会**／Tel.075(211)3484 ④木  
聖書講座 感謝と派遣のミサ  
「神に生かされて」—聖書にみる貧しさ—  
日 時：4日④ 10:30 河原町教会 聖堂  
よく分かる聖書の学び  
日 時：3日④ 10:30  
講 師：北村 善朗師  
会 場：河原町教会 ヴィリオンホール  
参加費：300円

## 修 道 会

**男子カルメル修道会**(宇治修道院)  
Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457  
**キリスト教靈の同伴**(松田 浩一師)  
日 時：5日⑤ 20:00～6日⑥ 15:00  
参加費：6,500円  
**アヴィラの聖テレジア生誕500年記念講演会**  
日 時：13日④ 14:30  
テーマ：テレジアの希望による福音  
参加費：無料  
会 場：カトリック会館 6階  
**待降節の黙想**(九里 彰師)  
日 時：13日④ 17:00～14日⑤ 16:00  
テーマ：神の子の誕生  
参加費：6,500円  
**水曜黙想**(松田 浩一師)  
日 時：17日⑥ 10:00～16:00  
テーマ：テレサと祈り  
参加費：3,000円(昼食代他)

## 京都教区サポートセンター

東日本大震災「大船渡支援」献金報告  
10月分 269,859円／累計 45,197,488円

※ 2015年2月号の原稿締切り日は12月17日⑥です。

## 聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

Tel.075(231)2017 Fax.(222)2573

## みことばを聴こう！

日 時：6日④ 9:30～16:00  
テー マ：主を待つ  
指 導：鶴山 進栄師  
対 象：青年男女  
会 費：500円(昼食代)  
申 込：2日④まで  
ロザリオと共に祈る会  
日 時：19日⑤ 10:30～12:00

## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

練習：14日④ 14:00

カトリック会館 6階

## コーラ・チェレステ(女声コーラス)

練習：11日④ 10:00

カトリック会館 6階

## 聴覚障がい者の会

## 手話ミサとクリスマス会

日 時：16日⑥ 11:00～14:00(受付 10:30)  
費 用：1,000円  
会 場：カトリック会館 6階  
申込要：Tel・Fax.077(573)6036(亀岡信子)  
心のともしび 番組案内  
テレビ(衛星.CATV)スカイ A スポーツプラス  
毎週土曜日 朝 7:45  
新シリーズ「人生を尊く聖書の言葉」  
出演は松浦 謙師(大阪教区)  
ラジオ(KBS京都) ④～⑤ 朝 5:45  
⑥ 朝 5:15  
12月のテーマ「クリスマスとは」

## 任 命(10月1日付)

## 教区 高山右近列福準備担当

ブ・ヨンホ(夫 英豪)師

ベネラント・ラウル・グマニト(ランディ)師

## 大塚司教の

12月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日④ 18:00 教区宣教司牧評議会  
書記局会議
- 4日⑤ 10:00 中央協 常任司教委員会  
18:00 日本カトリック神学院  
常任司教委員会(東京キャンパス)
- 5日⑥ 9:00 日本カトリック神学院  
常任司教委員会(東京キャンパス)
- 6日⑦ 13:30 第15回 教区宣教司牧評議会  
(河原町)
- 7日⑧ 16:00 WCC クリスマス  
平和の祈りの集い(河原町)
- 8日⑨ 14:00 司教顧問会
- 10日⑩-11日⑪ 日本カトリック神学院  
東京キャンパス

## 青年のための黙想会

教区の信仰教育委員会では、年に1~2回「青年のための黙想会」を開催しています。今年度は、10月4日~5日、溝部司教様の指導で、望洋庵において行われ、京都教区内から、12名の青年たちが参加しました。

テーマは「主はともにおられる」で、『神と人を愛すること』について黙想し、祈り、



望洋庵 聖堂

- 12日⑫ 13:30 メリノール女学院 理事会
- 13日⑬-15日⑭ 仙台教区 郡山教会 黙想会
- 16日⑮-18日⑯ 司教社会問題研修会(福島)
- 20日⑰ 10:00 四日市 海の星幼稚園  
創立50周年記念
- 24日⑲ 21:00 主の降誕深夜ミサ(河原町)
- 25日⑳ 10:30 主の降誕ミサ(河原町)

主のご降誕、およろこび申し上げます



分かち合いました。

この黙想会は、講師の司教様が一方的に話されるのではなく、参加者の中から選ばれた2名の青年が、事前に司教様の指導で準備し、決められた聖書の箇所から、自分の体験に基づいて問題提起をし、それについて、参加者が自分の体験を重ね合わせて考え、黙想するというものでした。

各問題提起のあとに、司教様の講話があり、聖体礼拝と小グループに分かれての分かち合いによって、さらに深め合いました。

2日間を通して、『教会の祈り~新しい聖務日課』を使って「朝の祈り」「昼の祈り」「晩の祈り」「寝る前の祈り」を参加者全員で一緒に祈り、神と対話すること、自分を見つめることを体験しました。

参加者は、慌しい日常からはなれ、静かな、心あたたまるひとときをいただいた恵みに感謝して、日常に帰っていきました。

(信仰教育委員会)